



第14回自治体国際交流表彰（総務大臣賞） ～受賞団体から学ぶ交流の取り組み～

（一財）自治体国際化協会交流支援部交流親善課

クリアでは、自治体の国際交流活動のさらなる活性化を図り、地域の国際化に資することを目的として、総務省と共催で、創意と工夫に富んだ国際交流の取り組みを「総務大臣賞」として表彰し、全国に広く紹介しています。

第14回目となる2019年度は、有識者からなる審査委員会の審査を経て、下記の3団体が受賞しました。

【評価のポイント】

◆富山県

長年にわたる交流活動を継続して信頼関係を築きながら、活動分野が多方面・多分野に広がっている。両県省における「ファン倶楽部」の創設や奨学金制度による人材育成・交流など、交流を深めていくための仕組みづくりに工夫がみられ、持続可能な活動へと発展していく可能性がみられる。

◆京都市

時代や社会の変化に合わせたテーマ設定で、文化・教育面の交流だけでなく、経済分野から政策分野、環境分野での連携を図るなど交流分野を拡大している。多くの団体・企業・学校が主体的に参加するなど市民との協働を基本としており、交流のさらなる活性化につなげるためのステップを示している。

◆薩摩川内市（鹿児島県）

長期間にわたって地道に交流を行っており、友好交流について市民の認知度も高く着実に交流の成果をあげつつある。行政、文化、教育、経済面など交流が複層的に実施されている点や港湾貿易の促進による地域経済の活性化に取り組んでいる点も評価できる。

ここからは受賞団体の具体的な取り組みを紹介します。

こうした取り組みを参考として、さらに多くの活発な国際交流が生まれることを期待しています。

クリアでは、毎年度秋に当該表彰の募集を行っています。皆様からの積極的なご応募をお待ちしています！

富山県

【交流相手先：遼寧省（中国）】

友好県省締結 35 周年のあゆみ

富山県は、日中国交正常化に尽力した故松村謙三氏の故郷であり、早くから中国との交流に力を入れています。

1979年の相互訪問をきっかけに富山県・遼寧省は密接な交流を続け、1982年、富山県知事を団長とする「青年の船」の遼寧省訪問時に友好県省の締結が提案され、1984年、故全樹仁^{ぜん しゅじん}省長を団長とする遼寧省代表団を富山県に迎え友好県省が締結されました。

友好提携以降、訪問団の相互派遣や、職員・留学生・技術研修員の派遣・受入れ、環境・スポーツ・文化・教育・観光等幅広い分野にわたる交流を行っています。

両県省の交流は日中両国間で高い評価を受けており、2009年に富山県知事が李克強^{り こくきやう} 國務院副総理（当時）を訪問した折に、「両県省の交流は日中自治体交流の模範である」との言葉をいただいたほか、中国人民対外友好協会から、モデル友好都市として表彰していただきました。

また、2019年は「日中青少年交流推進年」であったことから、学生の相互派遣・交流事業を行い、これからの日中交流を担う人材の相互理解を深めました。



富山ファン倶楽部里帰りツアーの様子（2019年9月・富山）

2019年12月には、富山県・遼寧省友好県省締結35周年記念式典・祝賀会を開催し、スライドの上映により、本県と遼寧省の友好のあゆみを振り返るとともに、富山の伝統芸能「もちつき太鼓」が披露され、大いに盛り上がりました。

2004年、富山をこよなく愛する中国人のネットワークとして、中国で「富山ファン倶楽部」が設立され、会員数は遼寧省在住者を中心に400人を超えています。同会では、友好県省35周年を記念した取り組みとして、富山ー大連便を利用した富山里帰りツアーの実施など特色ある交流も行っています。

さらに、2019年には富山県において「遼寧ファン倶楽部」の設立が発表されるなど、今後も両県省の人的ネットワーク、友好交流の広がりが期待されます。

日中関係のさらなる発展が期待されるなか、地方間の交流が果たす役割もますます大きくなっています。本県では、遼寧省とともに経済・貿易や観光分野の交流促進、人的および文化交流の推進にさらに熱心に取り組んでいきます。



35周年記念式典・祝賀会の様子（2019年12月・富山）

京都市

【交流相手先：ボストン市
（アメリカ合衆国）】

“姉妹都市提携60周年を契機に、未来志向の交流を展開”

京都市とボストン市は1959年の姉妹都市提携以降、文化・教育等の幅広い分野において長年にわたり市民間交流を深めてきました。ボストン市内にある「ボストン子ども博物館」では今から約40年前に京都市が寄贈した本物の京町家が展示されており、京都や日本の文化を

日常的に体験する機会が日々、現地の子どもたちに提供されています。

そして提携から60周年の大きな節目を迎えた2019年、今後の末永い交流を目指して、姉妹都市・日米間での「人材交流」という大きなテーマを掲げ、両市において1年間を通じて「①文化交流等を通じたグローバル人材の育成」と「②ライフサイエンスをはじめとする経済交流」を柱に記念事業を展開しました。



京都でライフサイエンス分野の会議を開催

記念事業の大部分は、両市の団体・企業・学校関係者の皆様が主体的に行っていただいた活動によるものです。取り組みの一例として、京都で活躍する作家集団・工芸京都による展覧会が両市で開催され、ボストンでの展覧会は現地で大きな話題となりました。また、教育面では日本の近代経済社会の基礎を築いたことで知られる渋沢栄一氏が携わった「日米友情人形」を通じた交流が京都市立高倉小学校で行われ、子どもたちが英語や多文化共生社会について学ぶきっかけとなりました。これらの取り組みを含め、市民主体の企画が実施される際にはボストン子ども博物館がデザインした「記念ロゴマーク」が積極的に活用され、ともに60周年の節目を祝う一体感が形成されたと実感しています。



ボストン市庁舎での再調印式

さらに政策面においても、ともにレジリエント・シティとして環境分野での連携強化をはじめ持続可能な都市を目指していくことを両市長で確認しあいました。

今回の周年事業を通じて、従来の交流分野が一層深められ、経済や環境分野へと交流の幅が広がると同時に、新たに多数の市民の方々に姉妹都市交流の一員として加わっていただきました。この周年事業を一過性のものとして終わらせるのではなく、その成果を活かし、今後も未来志向の交流を進めてまいりたいと考えております。

※詳細については、「京都・ボストン 姉妹都市提携60周年記念アルバム」
として冊子にまとめ、京都市の公式サイトで掲載しています。



<https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000265403.html>

※ QRコードでもご覧いただけます。

さつま せんだい

薩摩川内市 (鹿児島県)

【交流相手先：常熟市(中国)、昌寧郡(韓国)】

「心の通い合う友好都市交流」

薩摩川内市は、薩摩半島の北西部に位置し、市街部を悠々と流れる一級河川「川内川」が、東シナ海へとつながり、海に開けた土地柄となっています。

中国の常熟市との交流は、アジアに開けた重要港湾「川内港」の振興を図ることを目的に、1985年に第1次経済調査団を派遣したことに始まり、1991年に友好都市を締結しました。友好都市締結以来、29年の長きにわたり、公式訪問団の相互派遣をはじめ、経済・貿易・教育・文化・青少年スポーツなどさまざまな分野における幅広い相互交流を通して友好親善を深めてきました。

2018年10月には、常熟市を相手とする東京オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウン登録を受け、昨年の青少年スポーツ等交流団受入れ時に日本人の女子サッカーオリンピックを招へいし、サッカー教室を行い、指導・助言をいただきながら交流を深めました。

今後も各分野【友好交友校(平佐西小・石梅小)、友好会所(川内商工会議所・常熟市工商業連合会)、友好大学(鹿児島純心女子大学・常熟理工学院)、観光、港湾貿易】で締結された協力協定書に基づき、さらなる両市の市民交流や経済交流を広げられるよう取り組んでいきます。



オリンピックによるサッカー教室の様子

韓国の昌寧郡との交流は、「川内大綱引保存会」と「霊山綱引保存会」が1999年9月22日開催の「川内大綱引400年祭」を機に「綱引」を通じた民間交流を開始したことに始まり、2012年に友好都市を締結しました。友好都市締結以来、行政、職員間による研修、青少年スポーツ、貿易調査等の相互交流を行ってきました。

昨年5月の公式団派遣の際には、国際的行事であるウボトキ自然放鳥のイベントに参加し、貴重な経験を積み、今後の新たな交流のきっかけとなりました。

また、貿易調査団の相互派遣において、産業祭に参加し、両市郡の特産品のPRを行うことで、今後の経済交流の基礎づくりもできました。

今後も両市郡の共通点である「綱引」、「温泉」、「観光」、「ラムサル登録湿地」、「農業」などを生かした交流を深めるとともに、経済交流の発展にも努めます。



薩摩川内市産業祭において昌寧郡の特産品(ソーメン、コチュジャン、にんにくエキス)を無料配布

これからも相互発展のために、お互いの長所を学び、心の通い合う友好都市交流を続けていきます。